

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

平成30年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2019年3月7日

社会福祉法人童愛会
江の島保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

<p>評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)</p>	修了者番号		担当分野	
	①	H1601080	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702080	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	③	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0404082	<input type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑥	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別		認可保育所		
評価対象事業所名称		江の島保育園		
事業所連絡先	〒	190-0003		
	所在地	東京都立川市栄町5丁目20番地3		
	TEL	042-536-1443		
事業所代表者氏名		竹原 富貴子		
契約日	2018 年 9 月 1 日			
利用者調査票配布日(実施日)	2018 年 9 月 14 日			
利用者調査結果報告日	2018 年 12 月 4 日			
自己評価の調査票配布日	2018 年 9 月 12 日			
自己評価結果報告日	2018 年 12 月 4 日			
訪問調査日	2018 年 12 月 10 日			
評価合議日	2018 年 12 月 10 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)		<p>・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。</p> <p>・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。</p>		

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの最善の利益を守る ・生きる力の基礎を培う ・子どもの心に寄り添いながら、丁寧な育児を進める ・子どもの主体性を尊重し、能動的に遊べる環境を整える ・コミュニケーション力を高め、社会性を培う
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>心身ともに健康を維持する事が出来る職員であること。どのような事も真面目に意欲的に取り組み、自らの責任や、役割を果たせる職員であること。 職員集団の中で、自分を表現し、自身も仲間も認め合いながら協働出来る職員であること。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>園児の大切な命を預かっていることをいつも忘れず、どんな時も園児にとっての最善の利益を守ることを出来る職員であることを期待している。 保育園の社会的役割を担い、地域の子育て家庭への支援や社会貢献に繋がる行動を進んで取れることを期待している。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯89(在籍児童数106)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ、郵送または郵送・事業所内回収の併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

106
89
89
59
66.3

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」32.2%・「満足」47.5%の計79.7%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「整理整頓・清潔」「子どもの気持ちの尊重」など全17問中7問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「先生方が日々子どもたちの興味を知り、それに向き合ってくれており、自分で考えることを大切にしてくれているので子どもが成長しており、絵本の貸し出しや貴重な収穫体験もできるようになっている」「子どもに対してきちんと言葉かけをしてくれ、日々の保育生活で穏やかに過ごしており、毎日の体操も子どもの発達に欠かせない動きなど簡単に見えて難しいことをしていて、積み重ねがあってこそだと思うのでとてもよい」「園舎が新しくなって暑さ・寒さ対策がしっかりしているので、子どもたちは快適に過ごしており、室内の飾りがナチュラルで目に優しく、子どもの安定にもつながっており、親参加の行事が少ないことで子どもの安心・安全、変わらぬ日常を保っている」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては行事内容や日常活動の充実、園からの保護者への情報発信、設備に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	54	3	2	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が91.5%、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が3.4%となっている。 自由意見は6件で、「大人がしていることに興味を持って同じことをしたがつたり、他の子にも興味を持ってふるまえるようになった」「団体行動をして子どもなりに考えて遊んでいる」「毎日体操や天気のよい日は散歩に出ているようだ」のほか、日頃の活動や活動内容の保護者への伝達などについて、さらなる検討を望む声もみられる。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	47	9	3	0
「はい」が79.7%、「どちらともいえない」が15.3%、「いいえ」が5.1%となっている。 自由意見は4件で、「季節ごとに七夕や十五夜などの行事の説明があるなど、工夫してやっている」のほか、日頃の活動や保育内容について、さらなる充実を望む声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	51	7	0	1
「はい」が87.9%、「どちらともいえない」が12.1%となっている。 自由意見は8件で、「家では食べなくても園で栄養ある食事をとってくれていると思う」「家で嫌がって食べないものも園で食べられるようになったりしており、感謝している」「フルーツが毎回おやつに出るのはよい」などのほか、メニュー・食材、彩りなどについて、さらなる配慮を望む声も見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	37	11	10	1
「はい」が63.8%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が17.2%となっている。 自由意見は12件で、「夏場にはよく水遊びをさせてもらい、水を怖がることがなくなった」「天気の良い日は公園に行っているようだ」のほか、行事や戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	46	5	2	6
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が3.8%となっている。 自由意見は、受付時等の対応・接遇やお迎えの遅れ等に対する融通性について、さらなる検討を望む声が3件寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	38	14	6	1
「はい」が65.5%、「どちらともいえない」が24.1%、「いいえ」が10.3%となっている。 自由意見は9件で、保育中の安全管理や外部侵入対策、設備面、感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	35	15	7	2
「はい」が61.4%、「どちらともいえない」が26.3%、「いいえ」が12.3%となっている。 自由意見は11件で、「懇談会が兄弟を持つ親にも参加しやすいよう配慮されているため助かる」「行事は少ないが、忙しい身としては助かっている」のほか、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮に対して、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	10	4	0
「はい」が76.3%、「どちらともいえない」が16.9%、「いいえ」が6.8%となっている。 自由意見は11件で、「よく相談に乗ってくれて助かる」「毎日の丁寧なノートのコメントや悩みに共感してくれたり、安心して相談できる」「担当に関わらず、いろいろな先生から声をかけてもらい、ありがたい」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告、コミュニケーション機会の設定などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	56	3	0	0
「はい」が94.9%、「どちらともいえない」が5.1%となっている。 自由意見は7件で、「いつも本当にきれいだ」「設立2年目なので清潔だ」「手作りでオブジェや飾りがあり、自然な感じでよいと思う」「トイレや部屋・廊下などにドライフラワーや花などが飾られていて、雰囲気がよく清潔感がある」のほか、各室内の清掃や衛生管理などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	48	8	2	1
「はい」が82.8%、「どちらともいえない」が13.8%、「いいえ」が3.4%となっている。 自由意見は6件で、「皆優しく、よい職員ばかりだ」のほか、職員の接遇マナー等について、さらなる向上を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	18	5	1
「はい」が60.3%、「どちらともいえない」が31.0%、「いいえ」が8.6%となっている。 自由意見は11件で、「発熱した際にまめに検温して食事の様子を紙に記録しており、その後の受診に役立ち助かっている」のほか、ケガや体調急変等の把握・対応、ケガ・体調急変時の保護者への連絡、感染症対策などについて、さらなる検討を望む声が見られる。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	35	10	2	12
「はい」が74.5%、「どちらともいえない」が21.3%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は4件で、「まだいじめなど理解できていない年齢なので、これから注意して見ようと思う」のほか、子ども一人ひとりへの配慮・目配り、子ども間のトラブル発生時の保護者への情報提供などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	4	3	2
「はい」が87.7%、「どちらともいえない」が7.0%、「いいえ」が5.3%となっている。 自由意見は4件で、「片付け・お手伝いが好きなわが子の気持ちを大事に、ゆっくり付き合ってくれている姿を見かける」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応、子ども一人ひとりへの配慮・目配りなどについて、さらなる向上を望む声があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	8	1	8
「はい」が82.4%、「どちらともいえない」が15.7%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見は、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む内容が2件寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	44	4	9	2
「はい」が77.2%、「どちらともいえない」が7.0%、「いいえ」が15.8%となっている。 自由意見は9件で、「トイレトレーニングや箸の始め方など、連絡帳に書いてくれてありがたかった」「ノートのコメントで様子がよくわかり、集まりでは写真をたくさん見せてくれてよりイメージが湧いた」のほか、子どもの成長発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	11	4	15
「はい」が65.9%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が9.1%となっている。 自由意見は6件で、「不満はない」のほか、不満・要望等に対する傾聴姿勢、柔軟な対応などについて、さらなる向上を望む声があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	2	10	28
「はい」が61.3%、「どちらともいえない」が6.5%、「いいえ」が32.3%となっている。 自由意見は「子育てについて困っていることを自分から相談したことがないので、非該当である」の1件があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <div style="text-align: right;">○非該当</div>
	カテゴリー1の講評	
	理念等は会議や園便り等で繰り返し伝えることで理解を深められるようにしている 系列園共通の保育理念として「こどもの最善の利益を守る・生きる力の基礎を培う」を掲げ、目指す子ども像や保育方針とともに、園のホームページに掲載している。「入園のしおり」にはこれらと保育目標が明示され、入園時に配付して個別での説明を行っている。また保護者懇談会や入園後の個別面談での説明、園・クラス便りへの掲載などで折々に目に触れるようにしている。職員には入職時の教育のほか、総括会議において園長・主任による説明を行ったり、毎月のクラス・リーダー会議でも伝えており、非常勤には会議録によって周知を図っている。	
	子ども・保護者・職員が安心できる環境づくりとより良い運営に向けた取組を進めている 「職位・職務・職責内容表」に園長・主任などの経営層の職務・職責が明確に示されている。園長は保護者とのコミュニケーションを大切と考え、登園時や気になるときは積極的に声を掛けて話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。また、子どもが安心して過ごせるような園づくりに向け主任や乳児・幼児のリーダーと連携しながら保育における指導・助言などに努めている。園内の設備等は職員の意見を積極的に取り入れて働きやすい環境づくりに取り組むなど、多様な視点からより良い運営や保育へつなげられるようにしている。	
	案件に応じた検討・決定を図り、関係者への周知を行っている 事業計画・報告、予算・決算、職員採用や規程等の改定など法人としての重要案件の決定は理事会で行われている。決定事項は法人内の園長会で報告され、園に持ち帰り書面の配付とリーダー会議等で園長が伝えている。園内における各案件はリーダー会議やクラス会議で検討・決定し、園の方針としてクラスリーダーが各案件の決定事項を伝えるほか、会議録でも各自が確認できるようにしている。保護者に対しては、案件により園便りの発行、随時の書面の配付や園内掲示にて周知を図っている。	

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(○●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や職員の意向を把握し、組織内での検討から運営への反映に役立てている</p> <p>行事終了後には連絡帳や送迎時の聞き取りなどで感想を把握したり、日常的な連携の中でも随時要望を受け付けるほか、今回の第三者評価に伴う利用者調査においても保護者からの全体的な意向や要望等を把握する機会としており、この結果については組織内での共有・検討を図ることとしている。職員の意向はクラス会議での話し合いやリーダー職員からの聞き取りで把握し、職場環境面での配慮に反映させている。また園の経営状況は毎月の事務長からの報告で把握し、必要に応じた措置が生じた際には適宜対応するなどして予算管理に取り組んでいる。</p> <p>地域ニーズや保育業界の動向などの情報を把握し、園運営に活かしている</p> <p>市保育所事務連絡会や市社会福祉協議会・子ども家庭支援センターのブロック別会議に出席し、市の保育・教育政策や待機児状況、市内の防災や虐待・家庭支援等の情報を収集するとともに、各自治体・関係団体等の通信物や会議・研修等から、保育・福祉に係る制度や業界全体の動向を把握している。これらのさまざまな意見や情報を精査したうえで課題を抽出し、次年度の事業計画の立案時に反映するようにしている。なお、園では一時保育と定期利用保育の受け入れを行っているが、今後は地域との交流を積極的に図り、ニーズ把握に努めたいと考えている。</p> <p>各計画は課題の抽出や実施、振り返りなど、次への継承を意識して取り組んでいる</p> <p>園としての単年度の事業計画は理念と各情報からの課題等を総合的に抽出し、今年度は地域との連携や保育内容の充実などを掲げ、項目ごとに年単位で取り組んでいる。ほかに年間で研修計画・指導計画・行事計画などを作成している。各行事の計画は担当がねらい・準備などを記入した企画書を作成し、会議で進捗の確認をしながら遂行し、行事後の反省や保護者からの聞き取りから検討を図ることで、次年度の計画策定へとつなげている。本部体制の在り方や予算編成の仕方など、法人全体での中長期計画の策定を検討しており、今後の取組が待たれる。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えてい	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>保育士の基本姿勢等を就業規則で明示し、会議等の機会を通じて周知を図っている</p> <p>就業規則の服務規律には職員の基本的な心得が示され、「児童福祉のために自己に与えられた行動に専念すること」の資料とともに、職員への説明を行っている。また新年度当初の会議でも園長が福祉従事者としての倫理・規範について話しているほか、新人職員との個別面談時には、子どもへの丁寧な関わりや声の大きさなどの配慮事項も伝えられている。現在、施設の増加に伴い、法人内の統一性を図るべく、より実務に即した判断・行動規範の策定が法人の主任会において進められており、来年度からの適用を予定している。</p> <p>要望等の受付と対応、虐待防止の措置など利用者保護の仕組みを整えている</p> <p>利用者の意見・要望を第三者に相談できる苦情解決制度を整備しており、「入園のしおり」や園のホームページに掲載して入園時に保護者に説明している。また玄関にはご意見箱を設置して直接以外での方法でも意見・要望を受け付けており、これらの方法から寄せられた意見には個別に対応している。虐待防止に向け、市のマニュアルを職員に配付して内容の説明を行うほか、保育現場での子どもへの言動、虐待や防犯などの視点を踏まえた内容を外部研修で学ぶ機会も設けられている。必要が生じた場合は専門機関との連携を図る仕組みとしている。</p> <p>園の情報公開や機能・専門性の還元、地域ネットワークとの連携に取り組んでいる</p> <p>園の概要や活動の様子、財務情報等をHPに掲載するほか、今年度の第三者評価の受審と結果の公開においても園の透明性の確保に努めている。ボランティア等の受け入れにあたっては「ボランティア体験にあたり」を使用して個人情報保護等の説明を行ったうえで、活動に参加してもらっている。また一時保育・定期利用保育の実施にて地域への専門性の還元を行うほか、市保育所事務連絡会や市社協・子ども家庭支援センターの各会議に参加し、市内・地域内の各施設・機関との連携を図っている。</p>		

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>運営上のリスクを踏まえた対応、各種の訓練の実施や研鑽などに取り組んでいる</p> <p>園では法人が目指す保育のための人材不足をリスクとして捉え、最善の保育活動ができるように、募集への工夫で採用につなげられるようにしている。また毎月の防災・防火・消火訓練を行うほか、上級救命救急研修への参加と来園による消防署員のAED訓練も開催したり、父母会主催による交通訓練も開催している。大規模災害に対応する事業継続計画の策定は急務と考え、関連する研修に参加して情報を把握したり、園内での検討を重ねているところである。</p> <p>ケガ等の再発防止に向けた取組と、感染症や保健衛生の予防措置を行っている</p> <p>子どもの安全を優先と考え、転倒やひっかきによる軽微なケガを含めたヒヤリハットの収集を行い、系列園の看護師による話し合いと園内のリーダー会議や乳・幼児会議での共有・検討を図り、再発防止に取り組んでいるほか、年度末には要因の分析を行う予定としている。受診に至ってしまった事故等は、事故簿に記録した後、クラスリーダーを招集して共有・検討を図り、各クラスへの周知と環境面での変更なども行っている。また看護師が外部研修に参加し、嘔吐処理の方法や保健衛生管理などの学びを園内研修にて組織内での共有化を図っている。</p> <p>重要書類・PC内の情報管理を図り、利用目的の説明と同意書で意思を確認している</p> <p>個人情報保護規程及び園の行動指針・保護方針などを定め、職員には入職時の確認を課している。児童票等の重要情報は事務所内の鍵付きの書棚での保管と事務所内での閲覧と削除・更新を徹底するほか、PCにはログインパスワードでアクセスを制限し、ロック付きのUSBの使用などで漏洩防止を図っている。写真等の利用は入園説明会で説明後、承諾書の提出で同意の確認を行っているものの、HP等への掲載に対する利用目的の同意に向けた内容の整理、保護者への開示請求に関する説明は今後の課題となっている。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>採用に関する工夫等で人材の確保に努め、職員の配置・異動等の適正化に配慮している</p> <p>職員の採用は、各園からの要望を踏まえ、法人内の採用担当が一括で対応にあたっている。園ごとのHPで求人募集をしているほか、今年度からは専門業者のサイトへの掲載をすることでも人材確保の工夫を行っている。法人内での異動は職員の希望を聞き取り、理事長・園長・主任による会議で話し合われて決定するほか、園内の各クラスの担任配置等は、各自の希望や経験・スキル、育成などの視点を考慮したうえでバランスよく配置できるよう努めている。</p> <p>職員の育成に向けた取組と組織的な研鑽の仕組みが整えられている</p> <p>職員の育成に向け、国の政策であるキャリアアップ研修と、園の指名や職員の希望による研修内容を踏まえた計画を作成している。各研修後の学びについては総括会議での発表と報告書の閲覧を行うほか、保育に関することは乳・幼児会でも職員への共有を図っている。また外部講師による園内研修や系列園内の保育観察など組織的な研鑽が図られている。また常勤者は自己評価と園長との面談をもとに、自身の研鑽・成長に関する課題などを検討する仕組みを設けている。なお、各職員の成長やキャリア形成の展望・道筋を示すものの明確化を課題としている。</p> <p>職員の健康面等での配慮と、組織としての活性化や関係性の向上などに取り組んでいる</p> <p>就業状況や健康状態などの把握は園長・主任・看護師が行い、気になった職員には個人面談などで必要な対応を行っている。職員の気づきは積極的に受け入れ、今年度は園内の環境整備等に反映させたほか、クラス会議でも互いの気づきを話し合い、行事内容や保育活動に取り入れることで、自発的な活動の促進とやる気の向上の一助としている。また親睦会や法人内職員との交流で職員の関係性に配慮し、リーダー会議には主任がファシリテーターとして参加し、若いリーダー職員が話しやすくするなど、組織としての活性化や関係性の向上などに取り組んでいる。</p>		

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>年度途中の新園舎完成に伴い、仮園舎から新園舎への引っ越しで子どもたちや保護者の不安感を減らし、安心して登園できるように、また保育活動を安定に行えるような環境整備と体制を整えることを目標として掲げた。保護者へは引っ越しの日程や新園舎での体制の違いなどを説明するほか、子どもが新園舎に馴染めるように見学会を行った。また同時に受け入れ時の職員体制や場所の確認、また玩具が直ぐに使えるような家具のレイアウトや食事の配膳などを細やかに行ってきた。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>子ども・保護者が安心して過ごせる環境の提供に向け、年度途中の引っ越しに伴う、環境変化が生じたことから、保護者への丁寧な説明と子どもが混乱しないような配慮として、新園舎への見学会を設け、環境変化への配慮と理解を促す取組を進めた。また2階建てになったことで、早番・遅番など受け入れ体制の整備に向けた話し合いを何度も繰り返し、直ぐにおもちゃが使えるような家具のレイアウトや食事の際の配膳方法などを細やかに行うことで安心できる環境づくりに配慮した。また保護者からの意見・要望等を把握し、組織内での検討・改善に向けた取組を進めるなど、引き続き取り組む姿勢も見られた。</p> <p>新園舎のみならず、民営化園であることから継続的に保護者との信頼関係を深めていくことは重要な点であると考えており、継続的な課題として取り組むこととしている。なお、園内においては木の温かみを活かしつつ、季節ごとの自然物を飾ったり、絵本コーナーを設けて親子で安心して過ごせるような空間があるなど、第二の家庭のような雰囲気づくりにも配慮していることがうかがわれた。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

公立園からの引き継ぎと、仮設園舎での生活で法人の目指す保育活動ができる職員の動きや担当制が導入できるような環境の整備に取り組んだ。行事の見直しや時期の変更で仮園舎から新園舎での生活の流れを作ることに取り組み、年間で発達や季節に応じた活動の基盤を作ってきた。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

法人の目指す保育活動をするための準備期間として、また仮園舎から新園舎への引っ越しによる生活に向け、保育活動の内容の充実を図ることを目標としており、行事の時期を変更したことによって、新園舎での生活のリズムを考えながら保育内容を整備することに集中できるように工夫している。また移転後に園庭や園舎内を実際に使用したことで生じた保育における課題を検討し、そこからハード面での改善につなげるとともに、保育の流れや子どもへの援助などのこまやかな支援へとつながるよう職員間での話し合いが進められていた。一方でより具体的な保育の進め方や子どもへの援助など、職員間の認識を深めることが次なる課題と認識しており、今年度は、外部講師による園内研修の導入で職員の質の向上を図り、法人の目指す保育活動がさらに浸透することを目標として設定し、この取組を進めているため、上記の評点と設定した。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>園のホームページを通じて、保育・運営に関する情報を発信している</p> <p>園のホームページ(以下、「HP」)には保育理念や保育方針、目指す子ども像や保育内容、地域の家庭支援等のコンテンツを設け、定員や実施事業、一日の流れや食事・行事などのほか、苦情解決制度や個人情報保護などの多様な情報を発信している。また園舎のこだわりや保育の特色・内容、年間行事予定や園の一日の流れなどが示された「園のごあんない」もPDFファイルでダウンロードができるようになっている。これらは写真を活用して園の雰囲気の一部に触れられるようにしているが、更新については課題となっている。</p> <p>行政の媒体を活用し、地域に対して広く園の情報を提供している</p> <p>市のHPには、市内各園の定期的な入園可能な募集人数を公開するとともに、各園の専用ページが設けられ、保育方針や利用時間、年間行事などの情報が掲載されている。また市制作の「子育て応援ブックHiチーズ」にも園の情報が掲載されているほか、市の関係団体の情報誌には園の実施する子育て支援の情報が掲載され、それぞれのホームページ等でダウンロードや閲覧が可能となっている。今年度は第三者評価の受審を行っており、結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」にて公開される予定としている。</p> <p>柔軟な見学の受け入れに努め、園の特色や方針などを丁寧に説明している</p> <p>見学は電話での予約を基本として希望に応じて個別に受け付けているが、急な問い合わせ等にも可能な範囲で柔軟な対応に努めている。当日は園長や主任が応対し園舎内を案内しながら、園の方針や特色などを詳細に説明するとともに、各部屋や園庭などの掲示物や子どもたちの作品などから園の雰囲気を感じてもらったり、質疑応答を行いながら希望者の求める情報を伝え、不明点がないよう、丁寧な対応を心掛けている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
利用にあたっての重要事項を説明し、漏れのないような配慮と同意の確認をしている 入園の全体説明会と個別の面談を行っている。「入園のしおり」に基づき、行事予定や日課、保育時間や内容、準備物や登降園の際のルール、給食や健康管理、ケガの対応、苦情解決や個人情報保護など、園長・看護師・栄養士がそれぞれの担当内容を説明している。また全体での質疑応答を行うほか、個別の質問がある場合は面談の際にも対応している。その後に重要事項説明書の同意も得ており、この同意書には確認すべき内容がリスト化されることで不明点の再度の説明と確認漏れがないよう努めている。		
家庭での子どもの成育歴や健康状態などの確認を行っている 入園前に「健康状況について」「食事調査票」「現在のお子さんの様子」を事前に渡し、保護者の記入した内容をもとに面談を行っている。前述の書類には、出生からの発達・既往歴、予防接種や健診履歴、アレルギーや体質、食事やおやつの状況、子どもの生活リズムや遊び・言葉・排せつ・睡眠などが詳細に記載されている。子どもの健康状態や離乳食、アレルギーなどがある場合、専門職が同席して個別の特性や配慮などをこまやかに把握し、入園後の個別支援に役立てている。		
入園直後の不安軽減と利用終了後の支援の継続に配慮している 「慣れ保育」では子どもの状況に合わせて無理なく園の生活に順応できるよう配慮しており、保護者の就労や子どもの状態等に応じて日程調整を行っている。保護者には園と家庭での状況を伝え合いながらも不安軽減に努めており、特に0歳児は可能な限り初日から数日間親子で園を体験してもらうとともに、親子の関わりや保護者の援助などを見て、実際の園での支援に活かしている。また育児担当制のもとで個別の状況の把握と支援、早期の愛着関係の構築にも努めている。利用終了後には行事等の案内を出し、継続的な関係性を保てるよう配慮している。		

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもや家庭状況を把握して職員間で共有し、保育を行える仕組みを整えている</p> <p>入園決定家庭とは新年度担任による入園前面談を行い、特に0歳児は担任のほかに栄養士・看護師とも面談を実施して子どもの生活や発達状況、「慣れ保育」の調整も家庭と連携して把握している。また入園説明会では保育の特徴(日課・課業・行事など)を説明のうえ理解を深めている。また乳児・幼児の各会議では保護者から提出された各書面の情報をもとに、新年度の担当児童や進級児童、保育環境や導線を新担任が再構築して入園を迎えており、入園後の子どもの様子などは各クラス会議や方針会議で進捗などを話し合い共有されている。</p> <p>各種の計画を立案し、保育実践の振り返りや子どもの成長記録を行っている</p> <p>園長は年度末に新指針の内容と職員の意向も踏まえて全体的な計画を作成しており、それをもとに年度初めの「方針会議」で各クラスリーダーが年間指導計画を作成して職員に周知を図っている。また各指導計画は園独自の保育手法も盛り込み、年間を2期で作成し、その年度の子どもの成長に伴って計画の変更を行いながら、前期・年度末の総括会議にて全職員に周知し、意見交換を行う仕組みとしている。また乳児の個別計画と経過記録は担当職員が記録して各会議で共有されるほか、幼児は子どもの成長発達の状態を半年ごとに記録している。</p> <p>保護者との意見交換を図り、子どもが園生活を安心して過ごせるよう配慮している</p> <p>保護者に園の保育内容や年間行事を伝え、理解してもらう機会を設けている。年2回実施の懇談会では年間行事や年齢ごとの保育内容のほか、わらべ歌も一緒に楽しんで伝えており、年度末は動画等で子どもの成長を可視化して伝えている。個人面談は保育参観を含めて実施しており、平日昼間に一日一家庭ずつ実施し、園での活動や保護者の相談ごと等を聴く時間を設けるほか、幼児クラスに進級して間もない3歳児は6月に面談を実施し、保護者から家庭での様子や不安など把握して今後の保育や個別配慮に役立てている。</p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>日々の保育は子どものプライバシーや羞恥心に配慮を行っている</p> <p>入園時には写真や個人情報の取扱いについて説明を行い、外部と情報をやり取りする際は、保護者の同意を得て行うこととしている。また夏季のプール活動では天蓋をかけて目隠しを施すなど子どものプライバシーを守る取組を行っている。ただし、日常の保育場面で行われるおむつ替えや更衣などのプライバシーの配慮のほか、保護者と連携して子どもの状況把握をする「連絡簿」等の管理に一部さらなる向上の余地が見受けられたため、これらの検討と職員間での再認識を深める取組などに期待したい。</p> <p>一人ひとりの子どもの意思や発達状況に応じた支援に努めている</p> <p>乳児・幼児ともに一人ひとりの子どもの特性や習慣、生活リズムなどを踏まえ、集団の生活の中でも大人の助けをしながら見守られ、遊びの中で子どもの興味・関心が持てるようにしたり、子どもたちの声や気持ちを大人が肯定的に受け止め、その子の発達に合わせた配慮や支援、声掛けができるよう心がけている。また特に乳児は家庭との連携を密に行いつつ、育児担当制のもとで特定の職員との関係性を深めながら、子ども一人ひとりの意思や発達の状態に応じた援助を行いながら、安心して過ごせるようにしている。</p> <p>虐待に関する見守りの体制を整え、内外での研鑽なども行っている</p> <p>児童虐待マニュアルを整備し、対応フローをもとに早期発見や関係機関との連携を示すとともに、発見のポイントチェック表を準備し、必要時に経過を記録できるようにしている。今年度は行政が発行した虐待のマニュアルを各自に配付し、会議にて説明したとのことである。また要保護児童のネットワーク会議に参画して地域内の見守りに関する情報交換をしたり、虐待に関連する外部研修へと随時職員を派遣するほか、園内においても必要時に担任との連携を図りながら早期発見や継続的な支援ができる体制を整えている。</p>		

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種のマニュアルをファイリングし、随時の確認を行う仕組みとしている</p> <p>事故・不審者対応、食物アレルギーや児童虐待などのマニュアルがファイリングされており、これを事務室または一部を各クラスに常備している。食物アレルギー・除去食マニュアルでは毎月・当日の調理作業と手順を載せ、都の食物アレルギー緊急時対応マニュアルの対応手順も併せてまとめることで緊急時の対応に備えている。火災時の避難誘導訓練・事故発生・不審者対応などマニュアルも準備し、フローチャートで示して手順がわかるようにしている。また掃除等は当番を決めたり、チェック表を用いて実施漏れがないよう工夫している。</p> <p>日頃の保育や関連する業務の見直しを図る機会を設けている</p> <p>各種の業務手順や保育の環境・援助などの見直しは、随時及び年度末に行うこととしている。また行事の企画書はそれぞれの実施時に作成しており、準備・予算・ねらい・内容などを記載のうえ、評価反省と次年度に向けて引き継ぐ内容を記載し、次回の開催時に保護者の感想等も踏まえて改善を図る仕組みとしている。また外部講師による園内研修や系列園内の保育観察など組織的な研鑽が図られるほか、法人3園の主任・事務・看護・栄養の各会議が持たれ、それぞれの専門家の視点から意見交換を行いつつ、各園の運営での向上及び改善へと反映させている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		35 / 35
1 評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	
		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評		
<p>子どもの育ちを把握した環境構成を通じ、子どもの主体的な活動や成長を促している</p> <p>乳児は今年度から広い空間を心がけて担当職員がいる安心感を持ちながら遊べるよう配慮しており、サークルの中でゆったり過ごす空間のほか、匍匐や歩行を促す傾斜のある室内遊具、手の届く場所に用意した手作り玩具などで子どもが主体的に遊ぶとともに、午後には玩具を入れ替え、違う遊びや感覚を養えるよう工夫している。また幼児の職員で環境構成を話し合ったうえで一室をロッカー室にし、各室のコーナーを生活能力向上と遊びの定着や発展が促されるよう、全体の子どもの成長を見据えた保育環境を整えて保育を進めている。</p> <p>子どもの個別配慮を行ったり、生活能力向上が促されるよう工夫している</p> <p>乳児は担当性をとっており、担当する職員が子どもが成長する中で起きるトラブルや自我をその都度受け止めて解決に導くほか、着脱や排せつの自立、散歩などは子どもの関係性も育みながら生活能力の向上に向けて個別に促している。また各会議での話し合いや保護者との連携を行い、日課が安定してきた時期をみて無理のないよう進級に取り組んでいる。個別配慮が必要な児童は市の巡回相談で支援等のアドバイスをもらうほか、参観や面談を通じて保護者の意向も聴きながら個別で対応している。</p> <p>発達に沿ったルールや決まりを知り、就学に向けて期待を膨らませる取組を行っている</p> <p>幼児クラスは異年齢クラスで生活を行っており、主に5歳児が当番活動を行い、順番や決まりを守る大切さを知るほか、スケッチブックなど園生活で必要なものを自己管理できるよう引出しを用意して大切に扱えるよう工夫している。また年長児は電車で遠足に出かけ、公共のマナーやルールなどを知る機会ともなっている。近隣小学校との連携として子どもたちが運動会を見に行く機会があるほか、小学生とゲーム等での交流をしたり、年度末には授業風景の見学や学校探検を行うなど、就学へ期待を膨らませる取組を行っている。</p>		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

連絡帳や口頭での聴き取りで子どもの様子を把握し、職員間で共有している

朝の受け入れの際に保護者と挨拶を交わして口頭で様子を伺い、乳児は連絡帳で体温・睡眠・朝食など家庭での状況や生活リズムを把握するほか、幼児は2階ロッカー室に設置している「連絡簿」に保護者が子どもの様子など必要情報を記入しており、職員がこれらを確認したうえで保育にあたることとしている。また日中の活動や子どもの様子において「連絡簿」の活用や口頭での伝達なども行いながら、漏れのない引継ぎを心掛けるほか、乳児は連絡帳を通じて園での様子等を伝えるなど、日々の子どもの様子や健康状態等を保護者と共有する仕組みを整えている。

子どもの生活リズムや成長段階を把握して個別に生活能力が向上するよう工夫している

子どもの生活リズムを整え、生活能力向上を促す取組を行っている。乳児までは担当制を敷き、各職員が子どもの排せつリズムを把握して適宜声をかけていき、その子のペースや気持ちに寄り添いながら無理なく進めている。また離乳食は1対1の対応から始め、「おいしいね」と声をかけて美味しさを共有したり、発達に合わせて段階的に少数で食事がとれるように進めてゆくなど、子ども一人ひとりに合わせ、こまやかな援助に努めている。幼児においては日課を大切に準備が整った子どもから食することで一日の生活リズムを自分で調整する力を養っている。

休息や睡眠はSIDS対策にも配慮しながら、生活リズムに沿って個別に行われている

室内は温度・湿度等を季節に合わせて配慮し、子どもが安眠できるよう採光を調整するなど、快適な空間となるよう配慮している。また乳児は必要に応じて午前寝をしたり、保育時間が長い子どもには夕寝も行って個別の生活リズムで過ごせるよう配慮をするほか、昼の休息時に早め起きた子どもは再度眠れるようにしたり、職員と一緒に過ごすなど個別の状況に合わせて対応している。またSIDS対策として、睡眠時に身体に触れて、眠りの向きや咳込み等の確認を行うほか、午睡明けは検温も行い、子どもの急な体調変化にも対応できるよう工夫している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

園内外の自然を生かしたさまざまな活動を行い、子どもの心身の発達につなげている

天気の良い日は積極的に戸外活動に出かけて季節の移り変わりを楽しんでいる。乳児もデッキテラスで外気浴を行ったり近隣公園に春に花見へ出かけるほか、秋は雑木林で収集した落ち葉や木の実を使ったモビールや写真立てを想像を膨らませて作るなど戸外活動から制作へとつなぐ、室内を彩って季節を感じている。また園庭の花を誕生児にプレゼントしたり、季節の野菜をプランターで育てるほか、近隣の農園でサツマイモやジャガイモ掘りを行うなど子どもたちが日々の活動を通じて季節の移りわりを楽しみ感じられる取組を行っている。

環境整備や職員の援助等を工夫し、子どもの主体的な生活や遊びができるようにしている

園の生活の中では子どもたちが自主的に行動できるよう、必要な環境の整備と職員の援助を行い、遊びにおいてもさまざまな興味や関心が持てるような空間づくりと遊びこめる時間の保障に努めている。またわらべうたに親しんだり、素話や絵本などで言葉に触れて想像性が広がるほか、ボールや縄などを使用してリズム感や体幹を養い、遠出の散歩にも出かけて健康促進を行っている。幼児は異年齢での生活・活動を通じて互いに学びあい、子どもたちが意見を交わしながら助け合ったり、優しい心の育みともつながるなど、豊かな心情が培われている。

創意工夫や自立と自律など、子ども社会を形成する視点で多様な環境が整えられている

子どもの生活する保育環境は課業(6領域)をもとに構成されており、ランドセルや筆箱を設置して子どもたちが先生・生徒の役を決めて学校ごっこを楽しむほか、素材遊びでは編み物や織物を時間をかけて取り組んだり、廃材・セロテープ・ハサミなどを用いて創造性を膨らませて作り上げて、できた作品や途中の物は飾っておけるスペースなども用意している。また子どもが主体的な遊びの中で気持ちが高揚したり、トラブルになった場合は一人落ち着く空間で気持ちを調整できるようにするなどの配慮も行われている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

行事は子どもたちが期待を膨らませて自ら進んで参加できるよう工夫している

行事は子どもの興味や関心、年齢に沿って協力や達成など様々な子どもの育ちを含めて実施されている。夏季に行われる夏祭りでは保護者や卒園児も招かれて、各種のゲームで楽しむほか、3クラスの年長児が協力しあい作成した神輿を皆で担いで近所を練り歩いたり、わらべ歌の披露をし、全員で立川音頭(地域の踊り)を踊るなど楽しいひと時としている。また遠足前は室内に遠足場所を連想する物や写真を置いて期待を膨らませており、公共交通機関を利用して動物園に行きウオーラリーを楽しむなど子どもが自ら進んで行事に参加できるよう工夫している。

各行事は由来を知りながら、発達に沿って協力や達成などの視点を取り入れている

年間を通じて行われている日本の伝統的な行事は園独自の美術の内容を踏まえながら各クラスで行われている。子どもの日や桃の節句ではこいのぼりや雛人形などを描いたり作成して飾るほか、お月見や節分は簡単な調理保育も行い、会ごとに集会を開いて各クラスの作品を見せ合って楽しく由来を知る機会としている。またクリスマス会では前日にクッキーを作ってツリーを飾り付け、当日は職員による出し物のほか、年長児による季節の歌の披露やパーティーの雰囲気での会食など子どもが各行事に興味や関心を持ち楽しく参加できるよう工夫している。

行事の趣旨や園の想いを保護者に伝えて理解も得ながら進められている

新入園家庭には説明会で、在園家庭には年度末に年間行事予定表を配付しており、年度当初に行う「入園のつどい」でも園行事について趣旨や内容に触れて保護者に参加を促している。保護者懇談会ではわらべ歌と一緒に歌い園の取組を紹介するほか、幼児クラス中心で行われる「体育遊びの会」には保護者も参加して各クラス1時間程度「毎日体操」の成果を子どもが発表したり、親子で一緒に身体を動かす時間を設けるなど園の取組を伝える場としている。今後は保護者に理解を求めながら近隣地域や老人施設とも連携していくことも検討されている。

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている <div style="text-align: right;">〇非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている <div style="text-align: right;">〇非該当</div>
評価項目5の講評	
<p> 夕方保育は子どもの情緒の安定を図り、個々のペースで過ごせるよう工夫している 長い園生活を考慮して夕方保育もできる限りクラス保育を実施し、子どもの負担が最小限になるよう心掛けている。その日の午前中の活動や子どもの様子、個々の発達の違いを考慮しながら安全に進めて合同保育までは正規職員が就くなど人的環境も保障して子どもが寂しい思いをせず安心して生活できるよう配慮している。また長い保育時間を考慮してこまめな水分補給を行い、各保育室において静と動の遊びができる環境の中で、各々のペースで過ごしたり職員が絵本を読みきかせるなどゆったり過ごせるよう工夫している。 </p> <p> 夕方の保育も子どもに無理のないよう配慮しながら実施している 子どもたちの登降園や利用時間は「視診表」や「連絡簿」で把握しており、昼の時間に職員間で日中の様子や体調を踏まえて合同保育の時間もおおよそ決めることとしている。また夕方や合同保育時間は適宜玩具の入れ替えを行って子どもがその時間を楽しく過ごせるよう工夫するほか、子どもと信頼関係が築かれている一定の夕方職員を配置して子どもたちが情緒を安定させて安心して過ごせるよう配慮している。また夕方職員との引継ぎはメモを活用して伝えて、ケガや依頼事項など伝達内容によっては担任が保護者に直接伝えることとしている。 </p>	

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>喫食状況や職員からの声をもとに子どもや家庭に食を身近に感じる取組を行っている</p> <p>栄養士の献立作成の工夫として、旬の食材を使用して薄味で和食中心の給食提供に努めている。栄養士は年度初めや始めて提供するメニューの際は喫食状況を確認して子どもや職員からの声のほか給食会議での内容をもとに次回の給食提供に役立てている。また毎月発行されている「食事便り」で季節食材やおせちなどの行事食、郷土料理も紹介するほか、味覚や歯の健康など多岐にわたって保護者に情報発信している。また保護者からリクエストがあった際はレシピを配付するなど個別に対応して子どもや保護者が食事を楽しく身近になるよう努めている。</p> <p>アレルギーや宗教食など食事の提供は保護者と連携しながら安全に進められている</p> <p>食物アレルギー児の配慮として「指導表」をもとに除去食の提供を行い、毎月末に次月献立に除去食材を赤字で印をつけて栄養士と担任、保護者で把握している。また宗教食へも同様に配慮するほか、献立は平仮名で作成するなど保護者にわかりやすく伝わる工夫がされている。安全な食事提供に向けた取組として、別席を用意して専用トレーに除去名を記し、複数名で確認してから提供するなど誤飲・誤食に努めている。また除去が無い献立の時は、皆と席を近づけて会話を楽しみながら食べるなど、子どもの気持ちも考慮した細やかな配慮がされている。</p> <p>さまざまな食育活動を通じて、子どもに食の大切さや楽しさを感じる取組を行っている</p> <p>方針会議で共有した食育計画をもとに年を通じて食を身近に感じるさまざまな取組を行っている。夏野菜は生育を楽しみ、収穫後は塩や味噌で食べて食感や素材の味を感じるほか、近隣の魚屋の協力のもとで鮭の解体を観察して食事ですいただくなど命の大切さを知り、食べるまでの一連の流れも体験している。また日本の伝統行事を伝える行事食は工夫して提供するほか、ジャムやクッキー作りなど調理保育の際は普段と違う雰囲気や一緒に食べる楽しさを感じる視点も取り入れつつも、子どもたちに食の大切さや身近に感じる取組をしている。</p>			

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

看護師による保健指導で健康や安全に関心を持ち、日々の生活で習慣づいている

保健指導では看護師から目の話をしたり、咳エチケットや鼻のかみ方などの指導をしている。また生活マナーとしてトイレの使い方や正しい手洗い・うがいの仕方を伝えたり、歯磨きの仕方や大切さなどの話をするほか、汗をかいた時に身体を清潔にする方法はどうしたらいいかなど、子どもたちに問いかけて一緒に考えるなどして、子ども自らが意識して取り組めるようにしている。室内には年齢によって手の届くところにティッシュを置いたり、自分たちで棚から衣服を出して着替えができるようにするなど環境面での配慮もなされている。

専門家との連携を図り、子どもの健康管理にあたっている

園医による内科健診が0～2歳児が毎月、3歳以上児が年2回実施されており、定期的に子どもの健康状態や発達の状況を確認・記録するほか、歯科検診も年2回実施され、毎月の身体測定とともに、「けんこうのきろく」にて保護者に結果を知らせている。また看護師と園医との相談体制も整えられるほか、園内での日々の子どもの健康状態は家庭とのやり取りを通じて把握し、担任と看護師との連携を図りながら、必要時のケアにあたっている。なお、食物アレルギーや特定疾患等があれば保護者を通じて専門機関との連携のもとで必要な対応に努めている。

さまざまな機会を通じて、保護者に保健に関する情報を提供している

入園時には保護者に配付する「入園のしおり」に保健の項目を設け、登園前の健康観察のポイント、感染症発生時の対応や種類別の感染しやすい期間・登園のめやすのほか、予防接種や早寝早起きの習慣などの推奨を行うなど、園生活での園と家庭での子どもの健康管理の留意点やお願い事項を伝えている。また保健便りでは生活リズムの大切さや登園前の健康チェック、流行性の感染症や予防接種などの保健に関する情報を発信している。園内で感染症が発生した場合には保護者に速やかに状況を知らせるなど、蔓延防止に向けた情報提供も行っている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者との連携を図り、個別の事情や就労等への配慮に努めている</p> <p>入園時・後の個別の面談や懇談会、日々の連絡帳のやり取りや送迎時の会話など保護者との連携を図り、子どもや保護者の個別状況や就労等の情報を把握し、必要な支援に努めている。保護者の就労等への配慮として、急な残業等での対応にも可能な限り柔軟な対応に努めており、該当する利用者調査の項目でも一定の支持が得られている。また担任だけでなく、園長や主任も含めて積極的に声をかけるとともに、園内には絵本コーナーを設け、親子・保護者同士も含めてさまざまな会話につながるよう環境も整えている。</p> <p>保護者の子育てをサポートをしてゆく共育という考えのもとで情報発信に努めている</p> <p>保護者の子育てをサポートをしてゆく共育という考えのもと、保護者とのコミュニケーションを積極的にとることを意識しつつ、子どもに関わった大人が直接話をしたり、ノートを活用しながら伝えている。また子どもたちの行事では写真を用いてその時の様子や子どもたちの姿を掲示にて知らせるほか、懇談会でも資料や映像などを用いて子どもたちの姿や発達状況等を説明している。さらにクラス便りでは子どもの活動の様子や子ども同士の関わりなどをエピソードを交えて伝えたり、わらべうたや遊び、好きな絵本などの紹介も行っている。</p> <p>保護者同士や親子でのコミュニケーションの促進を図る機会をさまざまに設けている</p> <p>懇談会では子どもに関する話題をしながらも保護者が自己紹介をするほか、保護者の同士での話し合いではグループに分かれて子どもの紹介や育児に関する話題を提供して会話が弾むような工夫も行われている。夏祭りでは父母会によるバルーンアートコーナーを設け、保護者とともに行事を作り上げる機会となるほか、「体育遊びの会」では親子で体操やふれあい遊びを行いながら、親子・保護者同士のコミュニケーションを図ったり、親子で楽しみながら身体を動かして体幹等の育ちにもつながる一助ともなっている。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>食を通じて地域の方々との関わりが持たれ、新たな興味・関心へとつながっている</p> <p>今年から主に5歳児が農家の方との会話をしながら苗付けを教えもらい、野菜と果物の違いを知る機会となるほか、食材を納品している魚屋の協力を得て、鮭をさばく様子を観察したり、魚の匂いを嗅いだり触れる体験があるなど、身近な環境を活かした取組が行われている。また園内では子どもたちが作って収穫した野菜を準備し、初日は年長児が売り手となって関わり、保護者が購入することができるようにするなど、保護者にも興味・関心を深めてもらう取組ともなっている。</p> <p>季節ごとで子どもたちの生活・視野を広げる取組が行われている</p> <p>夏祭りではゲーム等の各コーナーをまわったり、盆踊りや年長児によるお神輿を見るなどしながら、卒園児を招いて皆で一緒に夏ならではの遊びを楽しんでいる。また正月明けには神社に出かけてその時ならではの雰囲気を知るほか、ひな祭り際にはお茶会として女の子がお茶をたてて振る舞うといった体験もできるようにしている。さらに系列園との子どもとの交流機会を設けており、劇団による人形劇を見たり、年長児遠足で電車に乗って出かけて広場で遊んだり、弁当を食べるなど、子どもたちの生活・視野を広げる取組が行われている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	園内研修や系列園との交流などで組織的な質の向上に取り組んでいる	
内容①	系列園への訪問による交流や保育の観察、外部講師による園内研修など、乳児の担当制、幼児での環境と大人の援助について職員の研鑽を図るほか、総括会議での振り返りや研修報告を行ったり、乳・幼児会議での子どもに関する発達やその支援などの共有も行っている。またリーダー会議には主任が出席することで若いリーダー職員が発言できるよう配慮しつつ、中堅層の育成に取り組むほか、方向性を決めたうえで下位のクラス会議にてお互いの気づきを話し合うなど、組織内の情報や認識などの共有、議論等の活性化にも努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	保育の充実に向けたさまざまな改善・工夫に取り組んでいる	
内容②	地域の方の協力を得て、畑での芋の苗付けと対話による興味の発展が行われるほか、職員間での意見交換や保育の方向性をより深く確かめ合うべく、クラス会として時期や時間帯なども含めて定例化を図っている。外部講師による保育観察があり、大人の関わりや日課の持ち方などについての助言が得られたことから職員が担当制の意味を考え直し、改めて保育の流れや援助方法を改善している。また法人3園の主任・事務・看護・栄養の各会議が持たれ、それぞれの専門家の視点から意見交換を行いつつ、各園の運営での向上及び改善へと反映させている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者に子どもの姿や園での保育・活動の一端が伝わるよう工夫をしている	
内容③	園が第二の家庭のように安心し、あたたかい場所と感じてもらえるよう、家庭と協力して一緒に子育てをしていきたいと考えており、その一助として園便りと別にクラス便りの充実を図っている。保護者に子どもの名前由来や夏休みの思い出、出産時のエピソードなどテーマをもとに記載の協力も得て親同士の情報共有を図るとともに、子どもの活動の様子や子ども同士の関わりなどをエピソードを交えたり、わらべうたや遊び、好きな絵本などの紹介も行なうなど、日々の保育での姿や子どもたちのやり取りなどがより具体的に伝わるよう工夫している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園周辺や室内環境を活かし、子どもの主体的な活動や関わりを促し、日々の生活や遊びが豊かになるよう取り組んでいる
	内容	園周辺の立地を活かして積極的に戸外に出かけ、季節ごとの散歩や遠足、近隣農園と連携した芋掘り経験のほか、「毎日体操」を実施して身体を使って遊ぶ楽しさや自然への興味につなげている。また収集した自然物を使いモバイルや写真立てなど制作活動を楽しみながら想像力や集中力も養うほか、各クラスの職員が会議で話し合い、環境認識・わらべ歌・体育・美術・数・文学などの領域を踏まえて室内の環境を設え、子どもたちが生活や遊びを通じて主体的に成長や発達が進められるよう取り組んでいる。
2	タイトル	一人ひとりの情緒の安定への配慮や子どもの発達に沿った人的・物的な環境の工夫が行われている
	内容	乳児は食事や遊び、睡眠のリズムを把握し、子どもと職員との互いが見合えるオープンな環境を用意して情緒の安定を図り、担当制保育のもとで愛着関係を深めている。また子ども一人ひとりの自我を受け止めながら排せつや食具の使用など個々のペースで生活能力の安定を促している。幼児クラスは異年齢保育を主にして発達の違いを意識した保育環境を用意するほか、子ども同士の関わりを通じて遊びや興味がさらに発展するなど、園生活を通じて子どもの自己の発達や興味・関心を踏まえて成長を促す取組を行っている。
3	タイトル	子どもが安心して過ごせるような園作りを目指し、多方面の知見を集約し、必要な改善やより良い運営へとつながるよう努めている
	内容	子どもが安心して過ごせるような園作りを目指し、登園時の声掛け等で保護者とのコミュニケーションを図るほか、要望等の把握と対応にあたっている。また職員からの要望を受けて休憩室に畳を敷くなど働きやすい環境づくりに配慮するほか、主任や乳児・幼児のリーダーと連携して保育における指導と助言を行うとともに、外部講師との連携を図り、子どもへの援助や配慮、環境構成などの助言を得ながら日々の保育の見直しに取り組むなど、多方面の知見を集約し、必要な改善やより良い運営へとつながるよう努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	5年後の園を想定し、課題を踏まえた中長期計画の策定が待たれる
	内容	中・長期計画は訪問調査時点において検討段階であるため、計画の策定には至っていないが、園では昨年からの新園舎での生活が始まったことにより、保育の充実を今年度の目標としている。5年後の園としての目標ややりたい園の姿を想定し、課題も踏まえた中・長期的な計画の策定が待たれる。また現時点での課題の抽出や目標の可視化に向けた内容ごとの目標の達成度合いやスケジュール、進捗の指標の明示などの工夫も検討されたい。
2	タイトル	組織的な認識の共有化を図るための工夫、各職員の成長やキャリア形成の展望・道筋を示すものの明確化などを検討されたい
	内容	法人内においては職員の新規採用や系列園間の異動が生じていることから、今年度、法人の主任会で職員の各種行動規範に関する基準策定が進められている。各園で伝承され、培ってきた保育も大切にしつつ、それらを活かした組織的な認識の共有化を図るための取組が期待される。また各職員の成長やキャリア形成の展望・道筋を示すものの明確化を課題としているため、組織内の階層や段階に応じ、対応するキャリアパス・育成制度の整備も法人間での連携をもとで一考されたい。
3	タイトル	目指す保育や運営の姿へとより近づくよう、職員の質の向上と保護者への情報発信などの取組をさらに推し進められたい
	内容	民営化された園という背景から、保護者との理解共有と職員の資質向上ということが課題となっており、園長交代を機として地域との関係性の深まりなども整理していきたいと考えている。現状においても保育における担当制保育や課業などの保育の特色である研鑽と現場での反映が行われつつあり、保護者に対する子どもに関する情報提供の配慮や行事の見直し、地域との食を通じた連携などの取組なども開始されているところであるが、今後のさらなる向上の余地があると言えるため、継続的な取組とその成果の獲得へとつながられたい。